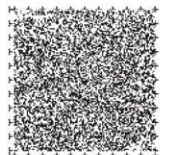


FUKUOKA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART

新
福岡県立
美術館
基本計画

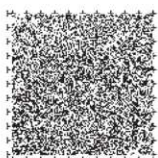
概要版



新福岡県立美術館 基本計画

現在、福岡市天神地区にある福岡県立美術館は、長年にわたり、芸術文化との触れ合いの場として多くの方々に親しまれてきました。しかし、建設から57年が経ち、建物の広さや機能に限界があることなどから、県では、県民の大切な文化資産である美術品や美術活動を継承し発展させるため、大濠公園南側（福岡市中央区）に新たな県立美術館を建設することとしました。

そこで、福岡県では「新福岡県立美術館基本計画策定委員会」のご意見をもとに、新県立美術館の建設や運営において必要となる基本的な考え方や取組みをまとめた「新福岡県立美術館基本計画」を令和3年11月に策定いたしました。



目指す姿とコンセプト

福岡県の歴史的背景や開放的で明るく進取の気性に富む県民性、本県の芸術文化における県立美術館の役割、九州の芸術文化発展に対する貢献、県民や芸術家を主役とした美術館のあり方、本県を代表する都市公園の魅力活用などの視点に立って、以下の4つを掲げます。

芸術の可能性を拓け、 挑戦する美術館

- 国内外の芸術家が交流し、文化芸術活動を展開する拠点となる。
- 最先端の技術を活用するなど新しい美術表現が行われ、新たな文化芸術の潮流を生み出す拠点となる。
- 若手芸術家の創作・発表などの文化芸術活動を支援し、次代を担う芸術家を育む拠点となる。

九州・福岡県の文化芸術の 発展に貢献する美術館

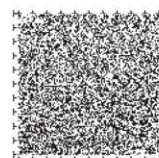
- 福岡県ゆかりの作家の作品や関連資料など、本県の美術活動の過去・現在・未来を発信する拠点となる。
- 県立美術館が蓄積してきた美術資産を継承するとともに、一層のコレクションの充実を図る。
- 九州の美術館と連携し、九州の文化芸術の発展に資する取組みを推進する。

県民が親しみ、 誇りを育む美術館

- 県民が美術に親しみ、感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの才能を発見し、伸ばす拠点となる。
- 豊かな文化芸術や美術資産に触れ、学ぶことができ、郷土への誇りと愛着を育む拠点となる。
- 多様な人々が美術館活動に参加し、文化芸術を通じたつながりや共感が生まれる拠点となる。
- 地域や学校、県内美術館等と連携し、文化芸術活動の効果を県内各地域にもたらす地域活性化の拠点となる。

公園と一体となった美術館

- 大濠公園と親和し、広く周辺地域にも活動の場を広げ、広大なアート空間を創出する。
- 能楽堂や日本庭園、福岡市美術館とも連携し、多様な美術表現の場となることにより、新たな文化芸術活動を誘発する。
- エリアのランドマークとなり、国内外の多くの人々の交流を促進する。



機能と役割

「目指す姿とコンセプト」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）や、ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（包摂）、さらに先端技術、新しい生活様式など、文化芸術を取り巻く社会情勢を踏まえ、これに的確に対応できるよう、「機能と役割」を整理します。

収集保存

- 長い歴史の中で生み出されてきた福岡県の美術を、永く後世に伝えていく。
- 体系的で魅力的に福岡県の美術を紹介するため、九州や世界の中で本県の美術を捉える視点でコレクションを拡充する。
- 最新の保存科学の知見を取り込みながら作品劣化の進行を防止するとともに、作品収蔵において将来にわたって安定的に保存できる設備を整える。

展示公開

- 重要文化財や大型作品の展示、デジタル技術を活用した展示等が可能な環境を整備する。
- コレクション展示では、収蔵品を分かりやすく、魅力的に紹介する。
- 特別展示では、国内外の名作が堪能できる展覧会、新しい美術表現を紹介する展覧会、福岡県や九州の美術を紹介する展覧会、親子で楽しむ展覧会など多彩な展覧会を開催する。
- 県民の作品発表のための県民ギャラリーを設け、福岡県美術展覧会（県展）の充実を図るとともに、若手芸術家に対し発表の機会を提供する。
- あらゆる人が作品を楽しむことができるよう、多言語表記や機器、アプリの導入など鑑賞のための工夫を行う。
- 日本庭園や能楽堂とも連携して日本文化の発信を行う。

教育普及連携交流

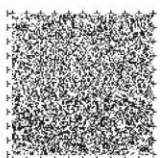
- 県民が主体的に参加し、文化芸術の社会包摂機能を活かしながら、アートを介したコミュニティ活動の拠点となることを目指す。
- 子どもから高齢者まで、芸術を介した新たな視点や価値観との出会いや、学びや体験の場となることを目指す。
- 教育分野や福祉分野と連携し、社会の共有財産としての役割を果たす。
- 県内各地に美術館の活動を拡げ、地域の価値や記憶を人々とともに育てていくことで「シビックプライド」を育む。
- 他の美術館や異分野との連携・交流を進めて、文化芸術に新たな価値を創造する活動を行う。

情報発信

- オンライン上にデジタルミュージアムを立ち上げ、展覧会案内や収蔵品の情報だけでなく、過去の展覧会の記録映像やバーチャル展覧会など多様なコンテンツを提供する。
- 戦略的な広報計画を立て、ネットマーケティングを活用した情報発信に取り組む。
- 来館者が美術館での楽しみや体験をSNS等で発信できるように環境を整える。
- 美術図書や美術関連資料についてはオンライン検索システムを構築するとともに、図書や資料を閲覧できる設備を整える。

美術館の快適な利用

- バリアフリーを徹底し、利用者目線に立って誰もがストレスなく、快適に美術館を利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方に基づき施設整備を行う。
- カフェ・レストラン、ミュージアムショップなど美術館の魅力を向上させる施設を整備する。
- 密にならず、ゆったりとして、来館者が安心して快適に美術鑑賞できる環境を整える。



調査研究

- 福岡県や九州の作家、作品に関して重点的に研究する。
- 先端技術を取り入れ、大学、企業、他の博物館等とも連携して取り組む。
- 研究成果を展覧会の企画立案、美術館の運営などに活用、発信する。
- 調査研究活動を継続的に実施できる環境を整備する。

施設整備計画

敷地の位置と周辺環境



計画敷地は県営大濠公園南側(福岡市中央区)の県有地で、現在は福岡武道館及び日本庭園が所在

敷地の現況

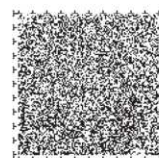


施設整備の基本方針

- 国内外の多くの人々が交流する拠点としてセントラルパーク構想の魅力をさらに高める施設整備を行う。
- 時代の変化に合わせて進化し続ける技術や新たな芸術表現に対応可能なフレキシブルな施設機能を備える。
- 誰もが安心して豊かな時間を過ごすことができる、環境にやさしいサステナブルな施設とする。
- 周辺の景観やまち並みとの調和を図りつつ、公園・日本庭園と一体となった展示空間として施設を整備する。

施設整備に必要な基本的性能

- 立地特性を考慮した整備
- 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減
- 防災機能の確保
- あらゆる人々が快適に利用できるユニバーサルデザイン
- 防火性能、防犯性能の確保
- 県産材や県産品の活用
- 環境負荷の低減・消費エネルギーの低減



施設計画

- 敷地面積 約20,400㎡
- 延床面積 美術館本体 約14,000㎡程度
(地下駐車場を含む面積 約21,000㎡程度)
- 建築物の高さ 新県立美術館に必要な規模とランドマーク機能を確保しつつ、周辺の風致景観との調和に配慮。

機能別の諸室と面積

※現時点で想定される目安の面積

収集保存 収蔵庫、一時保管庫、トラックヤード、荷解室、生物対策室等	2,300㎡
展示公開 常設コレクション展示室、企画展示室、 県民ギャラリー(貸し展示室)、控室等	3,800㎡
調査研究 研究室、資料室等	100㎡
教育普及 連携交流 多目的ルーム、ワークショップ室、ボランティア室、キッズスペース等	600㎡
情報発信 美術図書室、メディアスペース等	350㎡
快適な利用 ミュージアムショップ、カフェ・レストラン、エントランスホール等	3,450㎡
管理運営 館長室、事務室、会議室、電気・機械室、監視・警備室等	3,400㎡

全体コンセプト図



公園と街をつなぐ
動線づくり

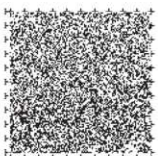
美術館との一体的
な再整備の検討

公園側への
眺望確保



設計上の配慮事項 (デザインコンセプト)

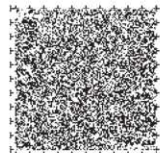
- 公園と街をつなぐパブリックスペース
- 公園や道路を行き交う人々への活動発信
- 公園北側から美術館への視認性の確保
- 公園・日本庭園への圧迫感を軽減するボリューム計画
- 公園や日本庭園・福岡城址への眺望への配慮
- 周辺建物からの眺望に配慮した屋上デザイン
- 南玄関口にふさわしい沿道景観を先導する外観デザイン
- 建物と外部の間に中間領域を形成する空間構成





周辺整備の考え方

- 誰もが安心して来館することができ、新県立美術館の誘客にもつながるアプローチ空間を検討する。
- セントラルパーク基本計画と連携し、芸術文化エリアの南玄関口にふさわしい空間として再整備する。
- 周辺市街地との連携により地域の魅力を発見する取組みを検討する。



管理運営計画

公の施設としてのあり方、美術館としての特性、「目指す姿とコンセプト」を踏まえて、管理運営を行います。

管理運営の基本方針

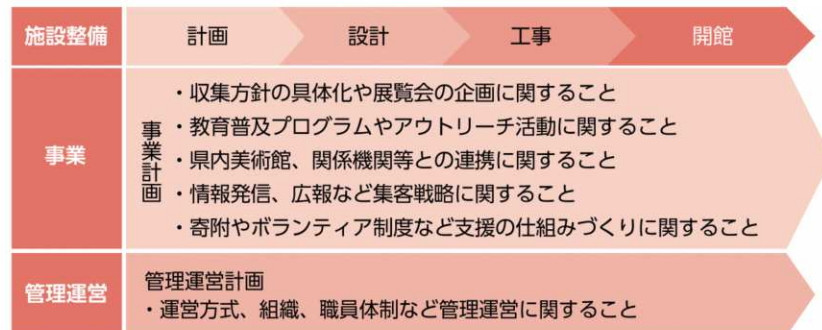
- 運営における公共性・透明性を確保し、安心安全で快適な美術活動空間を提供する。
- 美術資産を継承する使命を果たし、芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館であり続ける。
- 県民の美術館活動への参加を促し、地域活性化や観光など幅広い分野との取組みに向けて様々な主体との連携を進める。

組織体制のあり方

- 組織として企画広報部門、学芸部門、総務部門を設置
- 部門横断的なチーム編成など柔軟性・可変性を織り込んだ組織体制の検討
- リーダーシップとプロデューサー的な視点を持ち、国内外に発信力のある館長を配置
- 学芸部門におけるキュレーター(学芸員)、レジストラ(美術作品等履歴管理担当専門職員)、コンサーバター(保存・修復担当専門職員)、エデュケーター(教育担当専門職員)、アーキビスト、アート・ライブラリアン(美術司書)など専門人材の充実
- マーケティング・営業・広報戦略、情報発信、ICT等に精通する専門人材の活用
- 事業や管理運営に対する専門的・大局的な助言や、収集予定作品の中立的・客観的な評価のため、外部委員会を設置

今後のスケジュール

- 令和11(2029)年度の開館を目指して、具体的な準備を進め、推進体制を整える。
- 進捗状況について情報発信に努めるとともに、県民の声を聞く機会を設ける。



令和11
(2029)
年度開館

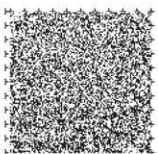
現県立美術館は天神地区のメリットを活かして、若手作家の交流やワークショップ、シンポジウムなどを行う施設としての活用が考えられるが、具体的な活用計画は今後検討する。

新福岡県立美術館基本計画策定委員会開催状況 第1回 令和2年7月21日/第2回 令和2年11月13日/
第3回 令和3年2月21日/第4回 令和3年5月29日/第5回 令和3年8月29日/第6回 令和3年11月11日

その他

基本計画の全文はホームページに掲載しています。

福岡県HP <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/shinkenbi-sakutei13.html>



新福岡県立美術館基本計画 概要版 発行日 令和4年3月
編集 福岡県人づくり・県民生活部 文化振興課 新県立美術館建設室
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 TEL 092-643-3346 FAX 092-643-3347
E-mail shinkenbi@pref.fukuoka.lg.jp

福岡県行政資料	
分類番号 JA	所属コード 5200205
登録年度 03	登録番号 0002